

データ保護と研究プロジェクトについての情報用紙

内容

一般情報	1
参加者の権利	2
研究プロジェクトの対象および実施	3

一般情報

以下の記述は、研究に参加する人のための情報源として、またデータ処理の法的根拠として機能するものです。研究プロジェクトの内容やデータ処理についてご質問がある場合は、担当の博士課程学生レーワイ洵子（Junko Lévy）までご連絡ください。本研究は、倫理的原則に則って実施され、参加者に何ら危険を及ぼすものではありません。データ処理は、日本およびドイツで施行されているデータ保護規則に従って行われます。

研究プロジェクト担当者：レーワイ洵子（修士） / Junko Lévy, BA BA MA

メール：junko.levay@student.hu-berlin.de

Instagram：jsl_interpreting_research

学位論文の指導教官：Prof. Dr. Christian Rathmann

ベルリン・フンボルト大学・リハビリテーション科学学科
ろう者学・手話通訳研究科

記録内容：視聴覚資料

データ処理：匿名化的に

データの処理場所：日本、ドイツ

データの処理方法：データは外付けのハードディスクに暗号化して保存され、安全に保管されます。また、データは、ベルリン・フンボルト大学のろう者学・手話通訳学科の研究サーバーに保存されます。

研究プロジェクトの担当者であるレーワイ洵子（Junko Lévy）と論文の監督者である Prof. Dr. Christian Rathmann のみがデータにアクセスすることができます。これは、データの慎重な取り扱いを保障するためです。

データの詳細な解析のために、研究の担当者はろう通訳者と聴通訳者の協力を得ている。これらの2人の通訳者は秘密保持を誓い、秘密保持契約書に署名する必要があります。これらの協力パートナーと一緒にデータ資料を検討するのは、担当者の立会いのみで行われます。

データは、第三者に譲渡されることはありません。

参加者の権利

1. 監督官庁/データ保護責任者への苦情申し立て権

ベルリン・フンボルト大学のデータ保護担当者の連絡先

Gesine Hoffmann-Holland

メール: gesine.hoffmann-holland@uv.hu-berlin.de

電話番号: +49 (30) 2093-20022

Website: <https://www.hu-berlin.de/de/datenschutz/kontakt>

2. 研究担当者による当該個人データへのアクセス権

3. 修正または削除の権利

4. 処理を制限する権利

5. 処理に反対する権利

6. データ移植の権利

7. 撤回されるまで同意に基づき実施された処理の合法性に影響を与えることなく、将来にわたっていつでも同意を撤回する権利。

その際は、研究担当者までご連絡ください: junko.levay@student.hu-berlin.de

研究プロジェクトの対象および実施

「Inter- and Transcultural Mediation in Sign Language Interpreting: A Study on Japanese Deaf and Hearing Sign Language Interpreters」*

* 手話通訳における相互的および異文化的仲介：日本のろう手話通訳者と聴手話通訳者についての研究

という学位論文の枠組みの中で行われている研究プロジェクトの目的は日本手話や日本語の話し言葉の知識が異なるろう者とのコミュニケーションを成立させるための通訳者、コード通訳者、非コード通訳者の適応通訳において、通訳戦略がどの程度異なるかを明らかにすることである。

さらに詳細には、通訳者がどのようにろう者のニーズに合わせて通訳を行うか、どのようにニュアンスを通訳するか、またどのような問題解決策を用いるかについて見ています。

研究課題の検討にあたっては、2022年9月26日～10月1日に大阪で開催される TISLR14 学会での発表の通訳、コミュニティでの実験シミュレーション（2023年1月実施予定）、法律での実験シミュレーション（2023年7月実施予定）を視聴覚的に撮影し、観察方法を採用する予定です。1回の通訳は20～30分程度です。

TISLR14 での発表では、アメリカ手話と国際手話の通訳も撮影し、英語から日本語の話し言葉への通訳も解析に使用する予定です。この場面では、通訳決定と通訳戦略、そして通訳チームのチーム戦略に焦点が当てられています。

法的な場面では法廷を、コミュニティの場面では心理療法をシミュレートしています。スクリプトは、裁判官と心理療法士の協力のもと、可能な限り本物に近づけるよう作成されています。

視聴覚撮影は、各通訳の詳細な分析を可能にし、実験的なシミュレーションの場合には、ろう者との相互作用を分析することができます。また、3つの場面すべてにおいて、通訳チーム同士の相互作用についても検討されています。

データ資料は、ろう通訳者と聴通訳者1名ずつと協力して、1回の通訳につき10～15分程度の抜粋で調査・分析される予定です。

全場面の分析結果が出次第、通訳者やインタラクターとしてシミュレーションや会議発表に参加した専門家に提示する予定です。その後、フォーカスグループインタビューで質問とフィードバックが行われます。フォーカスグループインタビューへの参加は任意ですが、望ましいことです。いくつかの場所と日程で開催を予定しています。場所と日時は後日発表します。

実験的なシミュレーションの注意点:

他の参加者のこともご存知でしょうから、それぞれの実験シミュレーションの内容を伝えることで、他の参加者が具体的に準備することにつながることを指摘したいと思います。しかし、これでは研究結果に歪みが生じてしまいます。したがって、それぞれの設定が完了する（日付は未定）までは、いかなるコンテンツも共有しないようお願いしたいのです。

レーワイ洵子 / Junko Lévy